

第9次中期経営計画（公開版）

【中期経営目標：強固な経営基盤の安定と事業基盤の継続的な発展】

対象期間：令和8年度～令和10年度

令和8年4月

株式会社 エコー

はじめに

令和8年4月より、第9次中期経営計画がスタートします。第6次から第8次の計画では、「人財・財務・技術・品質・業務」の5つの経営基盤を強固なものにし、盤石な経営基盤に基づく事業規模の拡大を目指してきました。第9次計画では「安定」と「継続」をキーワードにして、将来の事業規模の拡大に向けた土台作りを目的に、業務実施環境の改善を最重要課題に位置づけ、受注・売上目標を現状（令和7年度）レベルに据え置いた状態で、各種基盤の整備や発展（拡充）に力を入れる期間にします。

すなわち、経営基盤をより強化するため、中期3ヵ年の早い段階（1～2年）で改善すべき課題を、新たに「事業基盤」と呼称し、これの維持・発展に力を注ぎます。

また、第8次までの計画に引き続き、「社会的責任（CSR）」と「共通価値の創造（CSV）」を経営理念の基礎とし、エコーの資産である人財と技術を港湾・漁港・海岸・河川などの公共インフラ事業へ活用し、社会に貢献していきます。具体的な社会貢献として、「エコー版SDGs」に向けた行動を推進します。9次では、社会的責任（CSR）や共通価値の創造（CSV）との対応をより分かりやすく明確にするため、経営理念の表現を修正しました。

「経営目標」はこれまで同様、「顧客に信頼される会社」、「環境変化に強い会社」、「社員満足度の高い会社」及び「優れた人財を育成する会社」の4項目を普遍的なものとして位置づけます。これら4項目は、建設コンサルタントにとって重要な要素であり、共通価値を創造する組織の基本となります。

「中期経営目標」である「強固な経営基盤の安定と事業基盤の継続的な発展」を達成するために、6つの「事業方針」である「受注・利益確保」、「人財確保・育成」、「技術力向上」、「品質向上」、「生産性向上」、「社員満足度向上」に基づき、「人財・財務・技術・品質・生産性・社員満足度」のレベルを最大化することを目指します。

6つの「事業方針」の達成度は同時に向上させるのではなく、優先順位を付けて段階的に達成レベルの最大化を目指します。まず実行過程の第一段階として、人財の確保・育成と生産性向上により業務実施環境を改善します。その成果が第二段階の、品質向上、社員満足度向上、技術力向上の取り組みに繋がり、最終的に、安定的な受注と利益の確保を達成します。この正の循環を継続的に実行することで蓄積される人的資産と品質・技術の資産は、強固な経営基盤の安定と事業基盤の継続的な発展の原動力になります。事業基盤の継続的な発展を目的とし正の循環を繰り返すことにより、組織を安定・継続的に成長させます。

経営理念

- I. 私たちは、多様性を尊重するとともに、責任あるコンサルタントとして、社会規範に基づき健全で適正な活動を維持します。
- II. 私たちは、幅広い知識や経験、高度な技術を応用し、新しい価値を創出するとともに、常に自己啓発に努めます。
- III. 私たちは、家庭人、企業人、社会人として常に自らを取り巻く環境に心を配り、建設コンサルタントとしての活動を通じて、調和のとれた豊かで住みよい社会の実現に貢献します。

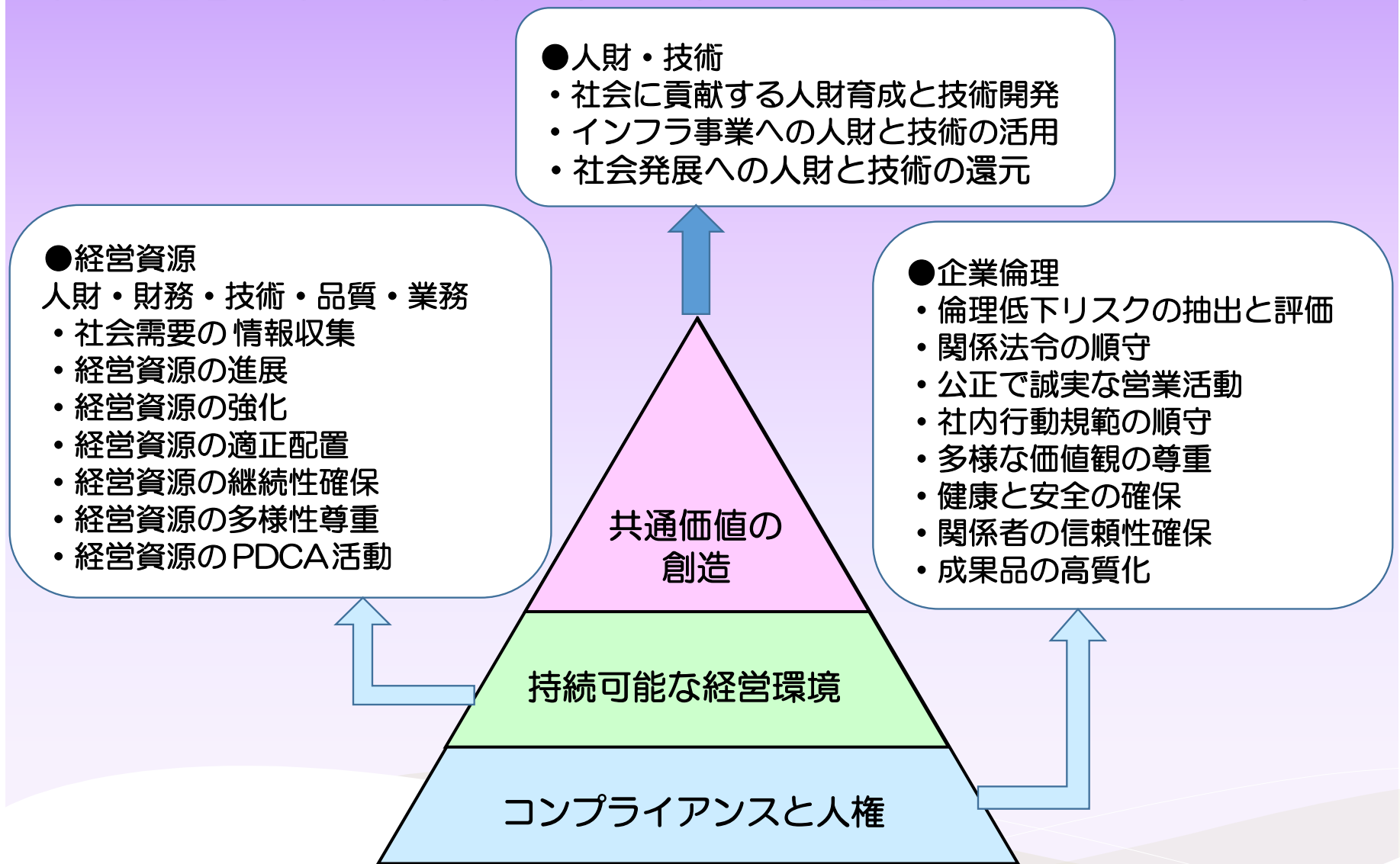
私たちが目指す経営理念は、果たすべき社会的責任（CSR）と、社会における共通価値の創造（CSV）に分類し、それらの構成を視覚化します。

※CSR：Corporate Social Responsibility

CSV：Creating Shared Value

※社会における共通価値の創造は、建設コンサルタント企業として、社会基盤（インフラ）整備における協業を行うことで社会に貢献します。

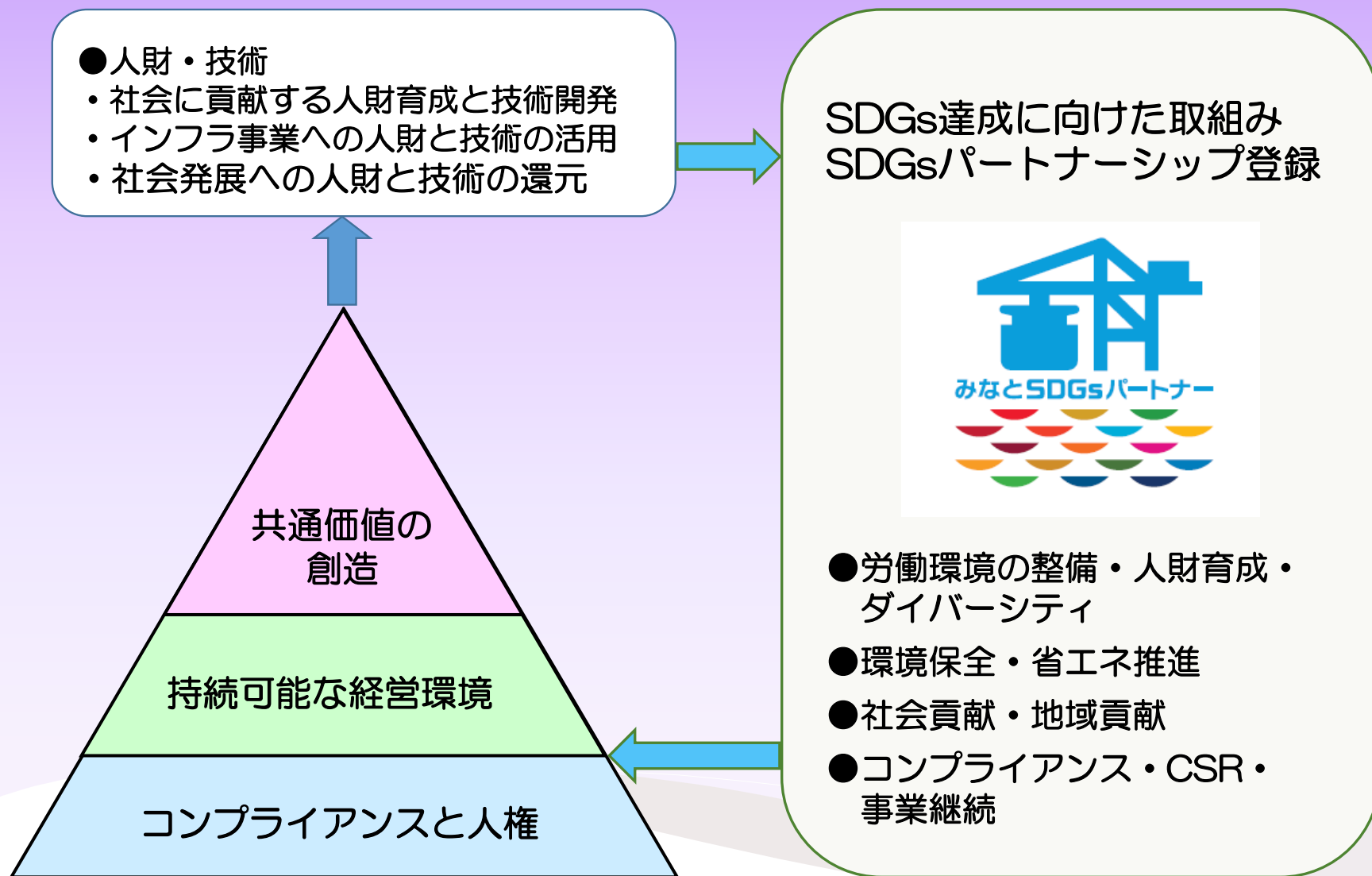
経営理念：社会的責任（CSR）と共通価値の創造（CSV）



参考：ネスレ株式会社のCSR・CSVの概念図

※人財の定義：社員を経営の財産と考え、長期にわたり育成を継続すること

経営理念：共通価値の創造（CSV）を具体化するSDGs活動



参考：エコーSDGs（みなとSDGsパートナーシップ登録）

経営目標

- I. 高度な技術力を基にした質の高いサービスを提供することにより、「顧客に信頼される会社」を目指す。
- II. 技術と営業の連携による受注の確保と生産性の向上等によって経営基盤の強化を図り、「経営環境の変化に強い会社」を目指す。
- III. 社会への貢献と安定した生活が実感できる「社員満足度の高い会社」を目指す。
- IV. 社会の模範となり、社会の共通価値を創造できる「優れた人財を育成する会社」を目指す。

※顧客からの信頼・経営環境への対応・社員の満足度・人財の育成に関する4項目を経営目標とする。

※人財（人的財産）を育成することは、建設コンサルタント企業を経営する根幹とする。

中期経営方針

- (1) 経営基盤となる人財・技術・財務をより強固にし、事業基盤の継続的な発展を図る。
- (2) 品質管理の徹底により、顧客満足度を最大化する成果を提供する。
- (3) 生産性と社員満足度を最大化する業務改善を、不断に繰り返す。

<背景>

令和5年度から令和7年度にわたる第8次中期経営計画では、「強固な経営基盤による事業規模の拡大」を中期経営目標と定め、「人財・技術・財務」の基盤整備とともに、より一層の事業規模の拡大を目指しました。その成果として、事業部制と地域拠点化を核とした新たな組織整備が完成するとともに、強固な経営基盤を確立することができました。この大きな要因は、技術と営業の連携による成果品の高質化や顧客満足度の向上、境界部門の働きによる適切な業務分担（社内ワークシェア）、部門毎の内製化の促進による利益率の向上が実現できたことによります。これらに加えて、コロナ禍後の社会情勢や働き方改革関連法に継続的に対応していき、社員満足度をより向上させるために、第7次中期経営計画において策定・整備した様々な規程や制度の改善を実施しました。

このような大きな成果を得る中で、今後、事業規模を拡大していくために必要な課題も見えてきました。その一つとして、管理職社員や一部社員への業務管理や作業の集中による業務量や負荷の増大、これをサポートする人財と組織体制の不足による品質低下の可能性が挙げられます。これを解決するためには、事業基盤となる、技術部門を組織的に支援する人財（DX技術者、技術提案書・積算の支援技術者、施工管理技術者等）の確保・育成や、これらの人財を活用した、さらなる組織体制の整備・発展が必要になります。また、強固な経営基盤の安定や社員満足度の向上のためには、さらなる利益率向上もしくは勤務時間削減（労働生産性の向上）は避けては通れない課題であり、各種プロセス（非効率・属人化等）の改善は今後の重要な取り組みとなります。

そこで第9次中期経営計画では、「人財確保・育成」と「生産性向上」を最重要課題に位置づけ、効果的な実行過程の循環（正のスパイラル）を繰り返すことで、経営基盤のさらなる安定と事業基盤の継続的な発展を目指します。

事業方針の基本構成と考え方

人財確保・育成（事業方針2）、技術力向上（事業方針3）、品質向上（事業方針4）、生産性向上（事業方針5）、社員満足度向上（事業方針6）の5つを優先度の高い方針とし、これら方針の達成成果が、受注・利益確保（事業方針1）に繋がるものとする。

受注・利益確保

（強固な経営基盤の安定化）
（事業基盤の継続的な発展）

人財確保・育成

（適切な要員配置）
（組織的な体制整備・構築）

技術力向上

（将来展望に基づく新技術の開発）
（既存技術の高度化・システム化）

品質向上

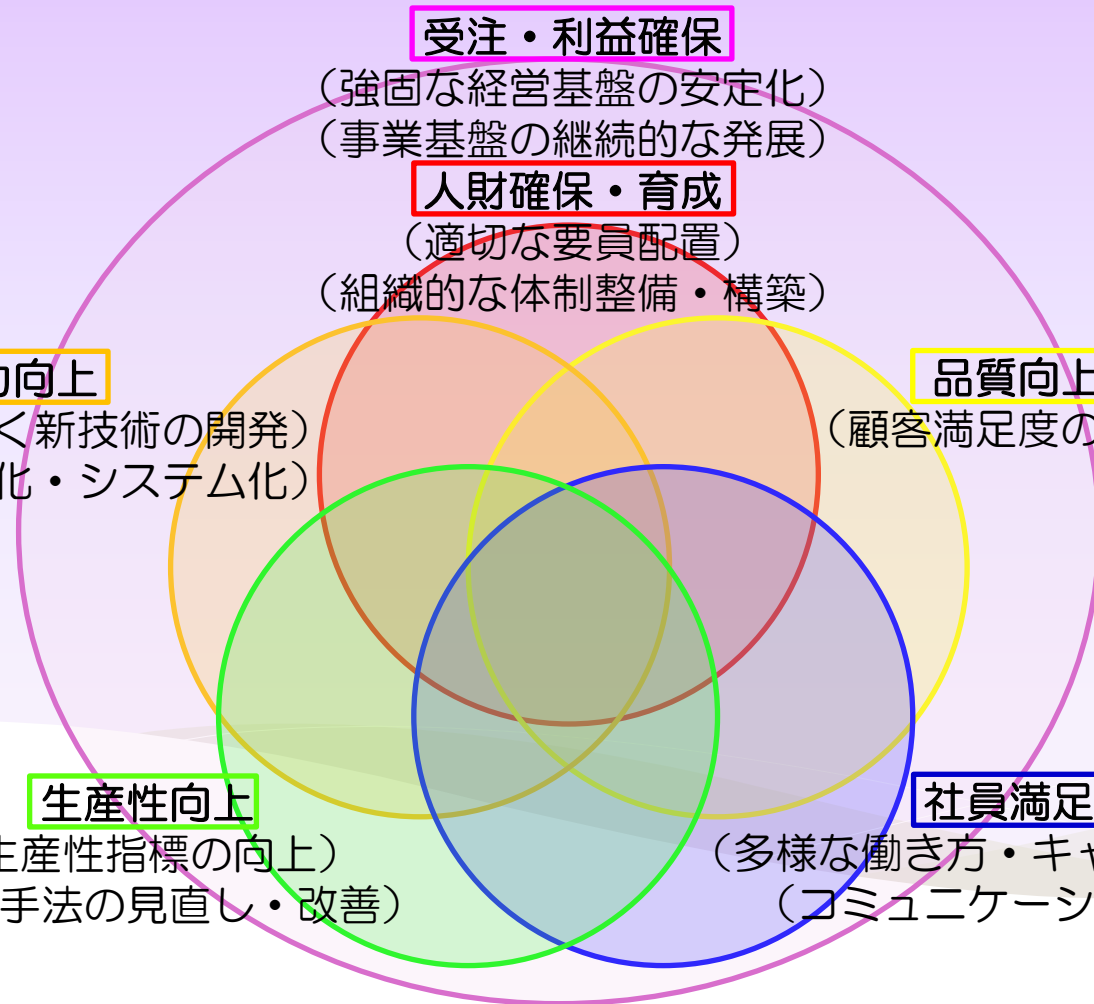
（顧客満足度の向上）

生産性向上

（生産性指標の向上）
（既存手法の見直し・改善）

社員満足度向上

（多様な働き方・キャリア形成の実現）
（コミュニケーションの活性化）

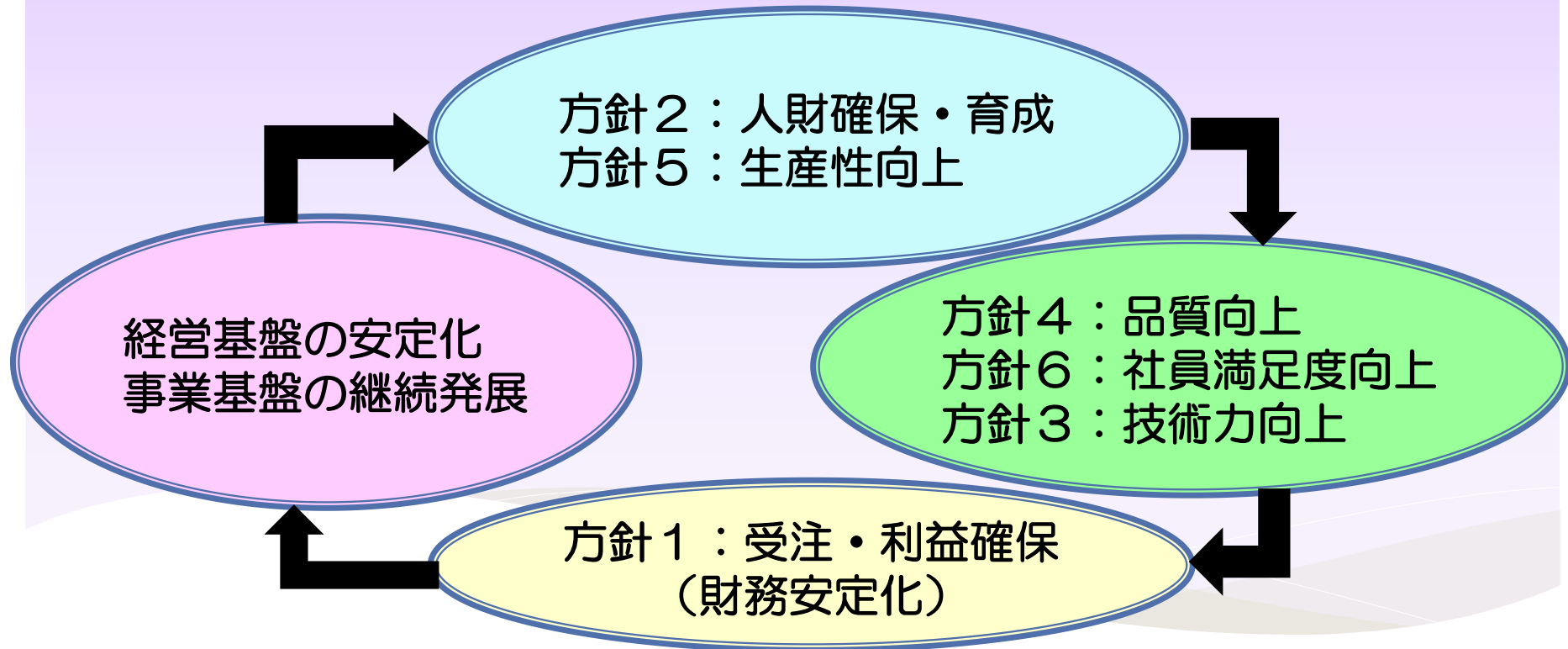


事業方針を達成する計画の実行過程

事業方針は次の優先過程をもとに、段階的に達成を目指す。

- ①人財確保・育成（方針2）、生産性向上（方針5）
- ②品質向上（方針4）、社員満足度向上（方針6）・技術力向上（方針3）
- ③受注・利益確保（方針1）

この循環（正のスパイラル構築）により、中期経営目標である
「強固な経営基盤の安定と事業基盤の継続的な発展」を目指す。



事業方針1

事業基盤の強化による受注と利益の安定確保

＜基本方針＞

- ①国内・海外の様々な顧客・分野・拠点に対する基盤構築による受注の確保
- ②技術・営業の連携による顧客要望の把握と受注の確保
- ③国内・海外の連携による海外業務実施体制の構築
- ④技術・業務提携による受注の拡大や利益の確保
- ⑤生産性向上及び部門連携による原価の縮減と利益の確保

事業方針2

組織の持続と安定を目指した人財の確保と育成

＜基本方針＞

- ①組織運営を円滑にするための要員確保と体制構築
- ②多様な人財の育成と活用による効果的な組織体制の構築
- ③組織運営を支える中核的な人財の育成
- ④競争力を維持・発展させるための業務遂行能力の向上

事業方針3

技術の高度化・総合化と新技術の開発

＜基本方針＞

- ①技術開発・拡充に関する顧客ニーズの把握と技術資料の作成
- ②保有技術の高度化・総合化の推進
- ③新技術の開発による業務分野の拡大

事業方針4

顧客満足度を最大化する品質の成果提供

＜基本方針＞

- ①各種照査の確実な実施及び体制の整備
- ②技術・営業の連携による顧客満足度を最大化する品質の提供
- ③安全に関する情報の共有と活用による安全管理の徹底
- ④事業継続計画（BCP）改訂による効果的な運用

事業方針5

各種プロセスの改善やシステム化及び連携による生産性向上

＜基本方針＞

- ①部門特性を踏まえた生産性指標に基づく実施体制の構築
- ②各種プロセスの改善による生産性の向上
- ③システムの共有化と品質確保の連携

事業方針6

多様性を尊重した働き方改革の継続による社員満足度の向上

＜基本方針＞

- ①多様な働き方の推進によるモチベーションの向上
- ②仕事と家庭生活の両立のための勤務環境の改善
- ③全社的なコミュニケーションの活性化